

[様式1]

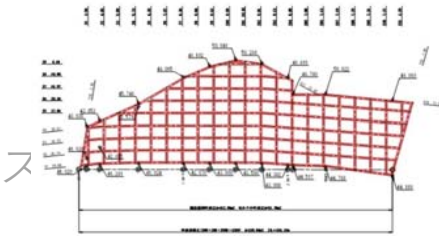
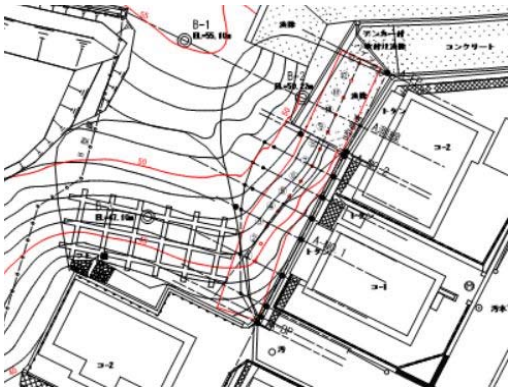
法面調査カルテ（斜面の概要、被災・変状の発生状況）

位置番号	①	報告書No.	1	法 高	高さ 6.5 m 1 段	対策工	抑止工	RB、GA、抑止杭、その他
所在地	浦添市大平地内			延 長	30 m		抑制工	法枠、排水溝、横ボーリング工
路線名				法勾配	1 : 1.0 ~ 1 : 1.2	完成年月	令和元年(2019年) 8月	
地形	崖錐地形, 崩壊跡地(地すべり地), 台地の裾部, 脚部浸食, 集水型斜面, 凸状尾根型斜面, 鞍部							
地質構造	崖錐・崩積土, 風化岩, 固結度の低い岩, 割れ目の多い岩, 流れ盤(層理面、弱線), 不透水性基盤上の土砂							
湧水状況	湧水あり, しみ出し程度							

周辺地山の状況(崩壊箇所との相違点や地形地質の違い)

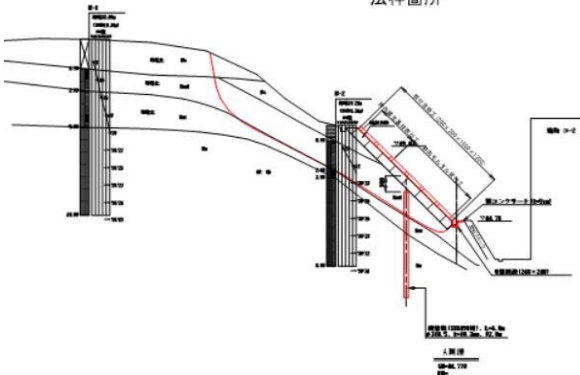
① 法肩上部地山の割れ目、沈下、浮石（崩壊部：      ・周辺地山：      ）	⑤ 構造物周辺の地盤の洗堀、沈下等（崩壊部：      ・周辺地山：      ）
② 法肩上部地山の植生衰退等の変化（崩壊部：      ・周辺地山：      ）	⑥ 法面排水溝の確保、機能不能の発見（崩壊部：      ・周辺地山：      ）
③ 法肩への流下水の集中状況（崩壊部：      ・周辺地山：      ）	⑦ 法面側方部、下方部からの湧水状況（崩壊部：      ・周辺地山：      ）
④ 法面と構造物の境界部の洗堀、割れ目、空洞等（崩壊部：      ・周辺地山：      ）	⑧ その他

【平面図】



Aブロック

【断面図】



【地形地質構造】

- ・斜面概要：周辺は、100.0m前後の丘陵で、南向きの地形勾配25°～30°の斜面となる。
- ・地層構成：島尻層群・豊見城層の泥岩で構成される。
- ・地質的特徴：沖縄県中部の

【災害・変状概要(要因)】

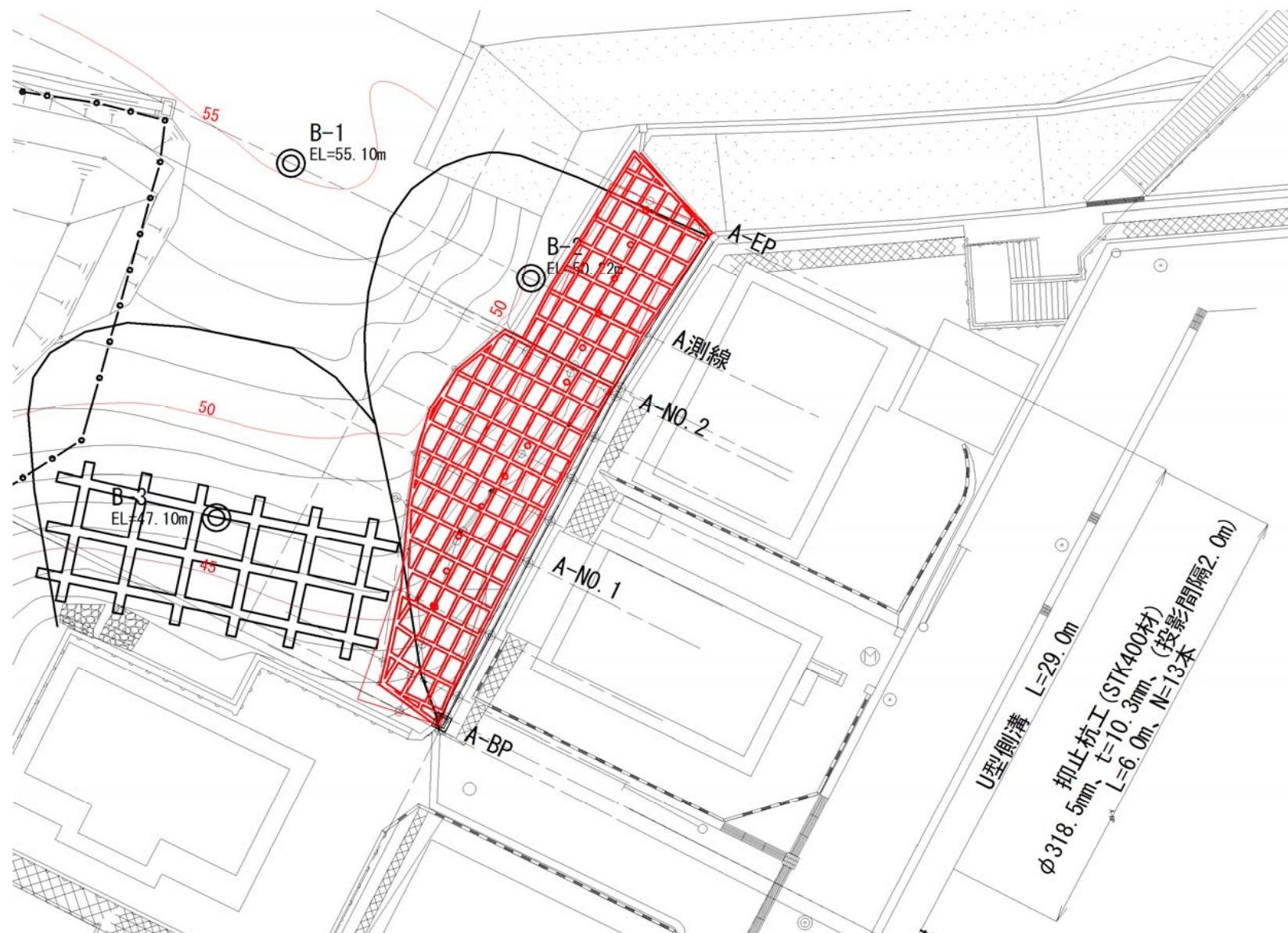
- ・事前対策工：あり・なし
- ・崩壊・変状の発生状況：

- ・素因・誘因：素因は、脆弱な盛土・崩積土層及び、強風化泥岩層が斜面に対して流れ盤状に分布。調査地の島尻層群泥岩層は、湿潤や乾燥の影響を受け劣化しやすい(スレーキング)地質特性を有する。
- 誘因は、まとまった降雨における間隙水圧の上昇及び土塊強度の低下。

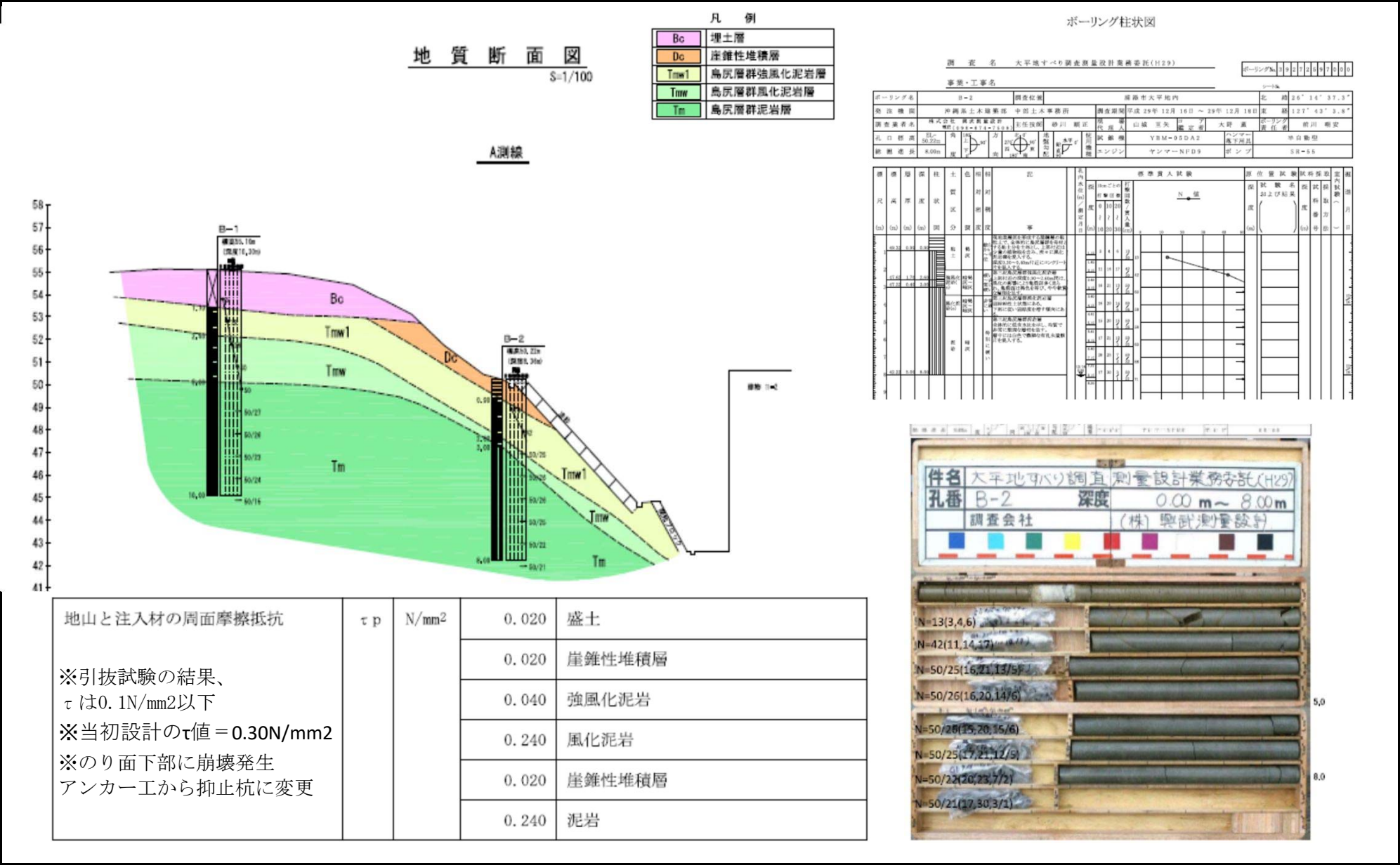
【被災後の対策工】

- ・抑制工：なし
- ・抑止工：法枠工、排水工
- ・設計思想：必要抑止力に対して不足分を抑止杭で対策
- ※抑制工（横ボーリング）の対策は無し、抑止杭長期許容応力度を採用

位置番号	①	報告書No.	1	法 高	高さ 6.5 m 1 段	対策工	抑止工	RB、GA、抑止杭、その他
所在地	浦添市大平地内			延 長	30 m		抑制工	法枠、排水溝、横ボーリング工
路線名	0			法勾配	1:1.0 ~ 1:1.2	完成年月	令和元年(2019年) 8月	



位置番号	①	報告書No.	1	法 高	高さ 6.5 m 0 段	対策工	抑止工	RB、GA、抑止杭、その他
所在地	浦添市大平地内			延 長	30 m		抑制工	法枠、排水溝、横ボーリング工
路線名	0			法勾配	1：1.0 ～ 1：1.2	完成年月	令和元年(2019年) 8月	





[様式3]

法面調査カルテ（斜面の概要、被災・変状の発生状況）

位置番号	①	報告書No.	1	法 高	高さ 6.5 m 1 段	対策工	抑止工	RB、GA、抑止杭、その他
所在地	浦添市大平地内			延 長	30 m		抑制工	法枠、排水溝、横ポーリング工
路線名	0			法勾配	1:1.0 ~ 1:1.2	完成年月	令和元年(2019年) 8月	



完成後R4.7.29撮影